

前立腺生検説明書および承諾書

1. 前立腺と前立腺癌について

前立腺は膀胱のすぐ下で、尿道を取り囲んでいます。裏側には直腸があります。精液の成分のうち、精子を保護する液を分泌します。前立腺肥大症は、前立腺が腫大する良性の病気ですが、前立腺癌は細胞が悪性化します。前立腺の中にとどまっている初期の癌では、ほとんど症状はみられません。

2. 前立腺癌の診断

1) 直腸診 (触診検査)

前立腺に肛門から指を入れて触れます。前立腺に硬い所がある場合、前立腺癌を疑います。

2) PSA 検査 (血液検査)

血液検査で、PSA (前立腺特異抗原) という腫瘍マーカーの値を調べます。

PSA 値が上昇していれば癌を疑います。一般的な PSA の採血結果と、その値で4) の前立腺生検を行って癌が見つかる頻度です。

・ PSA4ng/ml 以下	20%以下	・ PSA10~20ng/ml	35-45%
・ PSA4~10ng/ml	25-35%	・ PSA20ng/ml 以上	50%以上

3) MRI での画像検査 (画像診断)

前立腺を骨盤の単純 MRI 撮影で画像検査します。前立腺内の細胞密度の濃い癌組織や、炎症細胞などの浸潤の部位が撮影されます。疑わしい場合は4) の組織診断を行うことで、実際の癌の有無をスクリーニングします。

4) 前立腺生検 (組織診断)

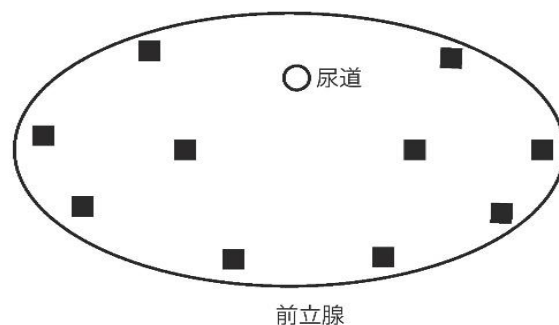
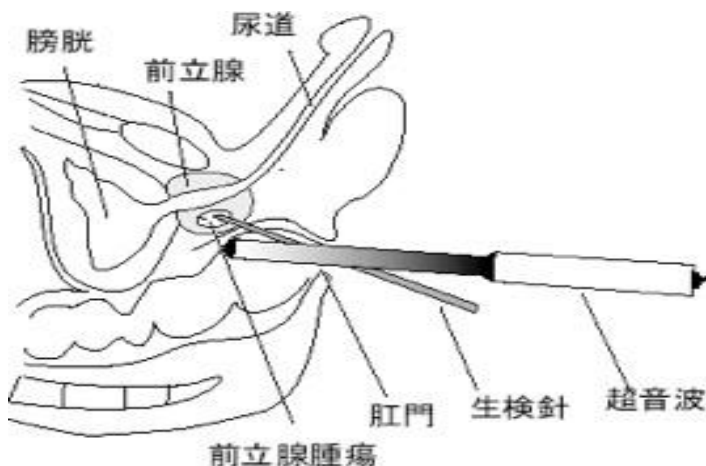
癌が疑われた場合には、前立腺の組織を採取して、実際に癌細胞があるかどうかを検査します。この検査を前立腺生検といいます。

3. 前立腺生検の方法

当院では日帰りで検査を行っています。仰臥位で両足を挙げた状態 (碎石位) で肛門から超音波を挿入します。超音波で前立腺を観察しながら針を刺入して前立腺の組織を採取します。この方法を経直腸的前立腺生検といいます。

麻酔は無麻酔で施行できます。これは直腸の奥の粘膜には痛覚神経が存在しない為、針の穿刺で痛みが生じないからです。ただし肛門部の超音波の挿入の違和感がありますので、麻酔の希望がある場合は仙骨硬膜外麻酔を行います。仙骨硬膜外麻酔は仙骨の先端から脊髄をとりかこんでいる膜 (硬膜) の外側 (硬膜外腔) に麻酔薬を注射して、会陰部だけ限局して痛みを感じなくする方法です。

前立腺全体から均等に約 10 ケ所の組織を針で採取します。直腸診で硬い所や事前の画像検査で異常に見える所がある場合、これらの部位から組織を追加採取することがあります。



4. 前立腺生検の合併症

1) 血尿・血便・精液出血

前立腺と膀胱は隣接し、前立腺の中を貫くように尿道があります。前立腺に針を刺入する際に、膀胱や尿道を若干損傷し血尿を生ずることがあります。この場合は排尿の最初や最後の出血が混じる場合が多いです。いきむと再出血することもあります。検査後数日～数週間で徐々に消失します。血便は最初だけ出ることが多いです。稀に精液を貯蔵する精嚢に出血が生じ、しばらく精液に血液の色が残る場合があります。

2) 尿路感染症

生検の際には体外から前立腺に針を刺すため、直腸の菌（主に大腸菌）の前立腺への感染の持ち込みが問題になります。その予防のために抗菌薬を投与します。また前立腺の中に菌が潜っていたことが原因でPSAが高かった場合、生検行為で菌が前立腺内から血中へ入り発熱する場合があります。頻度は100人に1人程度と言われており、発熱した場合は追加の抗生剤で菌を殺す治療をします。放置すれば敗血症ショックに進行する場合がありますので、38度以上の発熱が出るときがあれば、遠慮せずにいつでも必ずご連絡ください。（TEL 0587-56-5222、時間外は転送されます）

3) 排尿困難・尿閉

前立腺に針を刺し組織を採取することで、前立腺の中に出血やむくみが生じ、排尿が困難になることがあります。前立腺肥大症で前立腺が大きい方の中に、まれに尿閉といって、尿がまったく出せなくなることがあります。このような場合には、症状に応じて数日～数週間、自己導尿や尿道にカテーテルを入れるなどの処置が必要になることがあります。出血による前立腺のむくみが改善すると排尿状態は以前の状態に戻ります。

病理検査の結果が判明するまでには1週間程度かかります。次回の外来で病理結果の説明を行います。

その間に、出血が多い、38度以上の熱が出る、尿が出にくい等、お困りのことがありましたら、電話相談や早めの外来受診をお願いします。

※ **抗凝固薬の休薬について**：前立腺生検で、検査後にしっかり止血するために、血液をさらさらにする抗凝固薬の内服を一時的に中止して検査を行います。休薬が可能かどうかは、処方医に相談して確認します。抗凝固薬の処方を受けられている方はお申し出ください。また稀ではありますが、休薬により原疾患の増悪の可能性があります。

検査承諾書

前立腺生検の必要性、方法、合併症について医師から十分な説明を受け、理解したうえで、前立腺生検を行うことに同意します。

令和____年____月____日 お名前_____

(ご家族_____)

説明医師 大藪真理子

※ ご不明な点や心配なことがありましたら、医師またはスタッフまでお気軽にご相談下さい。

※ 検査を承諾後に生検を希望しなくなった際は、いつでもキャンセルすることができます。